

第17回ドリームチャレンジ賞(2023)への申請に対する所見

ドリームチャレンジ賞選考委員会

第17回ドリームチャレンジ賞への申請について、選考委員会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり全般的な所見をお示しします。採択者におかれましては所見を踏まえた助成金の有効な使用に努めていただきますとともに、不採択者におかれましても次回申請を検討される際の参考になさってください。

【選考上高く評価された点】

○普段の活動内容との関連を踏まえた上で、評価項目（独創性、ドリーム性、社会貢献性など）について具体的な記載がなされている。

○通常の部活動の範囲の内容とも捉えられるが、実施する活動内容が具体的かつ明確であり成果が期待できる。

○新しい分野、時代性にマッチした提案であり、社会貢献性も高い。

○昨年度の受賞の成果もしっかりと記載した上で、今年度の取組みについて触れられており継続性、発展性をうかがえる内容となっている。

○助成金だけに頼るのではなく、自ら資金を調達しようとする姿勢をうかがうことができ、夢を実現していくための積極的な姿勢が評価できる。

【選考上問題として指摘された点】

○事実関係について今後の予定であるにも関わらず実施済として記載されたものがあった。事実関係に誤りがあることが判明した場合、申請書自体の信ぴょう性に影響を与える可能性もあるので事実確認は必ず行ってほしい。

○申請代表者の情報以外の項目を毎年同一の申請内容（コピー&ペースト）で提出してくる団体が少なからずある。選考にあたり過去の申請書との比較は当然行っており、過去の記載内容も含めて選考が行われていることを十分認識いただきたい。

○取組みについて具体的な記載のない申請書は評価をすることが難しい。この支援を得て「何を」具体的に実施し、それにより何が実現できるのかをしっかりと書き込むようにしてほしい。

○経費計画について、ドリームチャレンジ賞の助成金の収支計画のみを記載しているケースが多数見受けられるが、ドリームチャレンジ賞のみを原資に活動することは現実的ではないと考えられる。計画の遂行にあたり部費や参加費の徴収、大学や企業からの支援があるのであれば、それらの収支も含めた計画を記載してほしい。助成金以外の原資があるからという理由のみで減額査定をすることはない（むしろ実際の状況を正確に見せていただきたい）。

○ドリームチャレンジ賞は、広島大学の在学生在が自主的に挑戦する夢を応援する企画であり、学外の団体が行う事業の補助・助成を目的とするものではない。一方で学外の団体に所属することで培った知見や活動を活かして、このドリームチャレンジ賞のために独自の取組みを提案することを妨げるものではないので、意欲的な挑戦を期待したい。

○上述のとおり、ドリームチャレンジ賞は、広島大学の在学生在が自主的に挑戦する夢を応援する企画であることから、通常の部活動等への運営支援や学会への参加費の要求にとどまる企画については、高い評価をすることは難しい。

以 上